資料２

第２回建設検討委員会の各審議事項に対する意見の概要と回答・対応方針

【意見に対する回答・対応方針における区分】
○：委員会意見を受けて修正を反映するもの
－：委員会意見の修正は反映しないもの

資料	No.	項目	第２回建設検討委員会での意見の概要	意見に対する回答・対応方針	区分
資料2 計画ごみ量および施設規模について	2－1	ごみ減量目標	人口が減少しないのに、計画ごみ量が現状よりも減少する見込みになっているが、目標値を達成できない場合にはごみ処理が立ち行かなくなるのではないか。 目標値も厳しい設定になっているのではないか。	計画ごみ量については、「ごみ処理広域化基本構想」の策定段階において、構成市が検討・整理した目標値に基づいて設定しています。 ■ 朝霞市では、「一般廃棄物処理基本計画」の中間見直しの値に人口補正を行い設定 ■ 和光市では、「一般廃棄物処理基本計画」の目標設定の考え方を踏まえ、廃棄物減量等推進審議会において設定 このため、現状では第２回委員会において提示した計画ごみ量を採用する方針とします。 ただし、構成市の一般廃棄物処理基本計画の見直しが予定されているため、引き続き構成市とも連携し、必要があれば見直しを行うものとします。	－
	2－2		構成市で目標設定に差があるが、生活形態に大きな差異は無いと考えられる。また、事業系ごみについては、大型スーパーの出店計画も影響する。 これらの観点から、計画ごみ量を設定すべきではないか。		
	2－3	施設規模算定	施設規模算定において、実稼働率は土日休止としているが、実際は土曜日も稼働している。この観点を含めるべきではないか。	土曜日の稼働については、朝霞市及び和光市では受入れのみでなく処理作業までを行っています。 直接搬入については、ごみ広域処理施設となってもこれまで同様に土曜日も受入れを想定していますが、受付・稼働の見直しを行う可能性があります。 また、週休２日制としている他事例が多いことや労働環境を重視する社会情勢からも、施設規模の算定上は、土曜日を休止日として扱うこととしています。 一方で、粗大ごみ等は土曜日の搬入が多くなる実績もあるため、施設整備基本計画の中で、土曜日に受入のみを行うことを想定した運用やヤードの大きさ等を検討していくものとします。	
資料3 計画ごみ質について	3－1	計画ごみ質	低位発熱量については、新たに対象となる破砕残渣や処理残渣の影響で構成市の実績よりも高めに設定されているが、今年度制定された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づく国の方針にも変更がある可能性があるため、プラスチックの分別の影響も考慮して設定値よりも少し低く設定する必要があるのではないか。	プラスチック類処理施設から搬入される処理残渣については、容器包装やペットボトル等を処理する施設の処理（選別）の過程で取り除いたリサイクルに向かない残渣を対象としているため、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が成立後の状況においても一定量は発生すると見込まれます。 一方、不燃・粗大ごみ処理施設からの破砕残渣については、新施設では構成市の現有施設とは処理方法が変更になることから、ごみ焼却施設で受入れる破砕残渣量が増えることを想定したごみ質設定としていましたが、性状については現状と同程度と想定することとします。 上記の考えから、以下の内容で計画ごみ質の見直しを行いました。 ■ 破砕残渣・処理残渣のうち、破砕残渣量分は影響を除外して、全体的な熱量を少し下げる ■ 低い低位発熱量の範囲までを含めて幅広いごみ質の範囲に対応できるようする	○
資料4 整備・運営コンセプトについて	－	コンセプト案	（整備・運営コンセプトの内容については委員会での意見無し）	原案のままとします。	－
	4－1	その他	ペット火葬の実施について、どのような考えか。ペットは家族という認識があり、一般廃棄物ではない。市民サービスの向上にもつながるため、収骨の可否や窓口を別にする等検討いただけないか。	本組合が整備するごみ広域処理施設は、一般廃棄物処理施設であり、ペット用の火葬施設の整備や収骨等の個別対応については、人件費や設備費、維持管理費等が追加で必要となることや、現状で民間の火葬事業者もあることから、個別の対応は行わない方針とします。	

資料	No.	項目	第 2 回建設検討委員会での意見の概要	意見に対する回答・対応方針	区分
資料5 環境保全目標について	5－1	排ガス目標設定値	設定値案で定める数値によって、コストはどの程度差が出るのか。数値だけであれば、低い設定値の方が良いのではないか。コスト面の評価も含めて提示して欲しい。	メーカーヒアリング調査において、事務局案として設定値案②を採用することとし、設定値案①および設定値案③とした場合の設備費用や薬剤費などのコストの違いを調査します。 その結果を踏まえて、再度委員会に提示し、ごみ広域処理施設の排ガス目標値を審議いただくこととします。	○
資料6 処理方式について	－	1 次選定結果	（委員会の了承をいただいた）	1 次選定した 4 つの方式について、2 次選定を進めていくものとします。	○
	6－1	処理方式選定の評価の視点	処理方式の選定にあたって、「耐用年数」、「故障等緊急時の対応可否」、「故障率（故障頻度）」、「ランニングコスト」の違いはあるか。	ご指摘の内容については、2 次選定における評価項目案として検討しました。 （第 3 回建設検討委員会における審議事項）	
	6－2		処理方式によって、処理残渣に違いがあるが、各処理方式でどの程度の処理残渣が発生するのかや、資源化の可否、コスト等も含めて評価する必要があるのではないか。		
	6－3		1 次選定の 3 要件は重みが異なるのではないか。	1 次選定では、3 要件全てを満たす処理方式を広く抽出している考えになります。2 次選定において詳細の評価項目や基準について、ご指摘の重み等も考慮した設定をして、最終的なごみ広域処理施設の処理方式を選定する方針としています。	
資料7 余熱利用について	7－1	発電した電力の利用方法	余熱は積極的に発電に回して、売電をする方針となっているが、和光市では国と連携した事業として、自動運転の技術実証試験を行うこととしている。おそらく、EV 車になると想定しているため、充電スタンドも検討していただきたい。	充電スタンドについては、地域貢献で実施を検討しています。 このため、資料 9 の地域貢献策における充電スタンドを実施することとします。	○
資料8 浸水・地震対策について	－	－	（委員会での意見無し）	原案のままとします。 なお、資料で示した方針に基づいて詳細を検討し、施設整備基本計画に示していきます。	－
資料9 地域貢献策について	9－1	来場者対応	多言語対応については、どのように考えているか。	構成市では国際化の推進に関する諸計画を策定しており、その中で公共施設における多言語表記などについて取り組んでいることから、新たに整備する広域処理施設においても、構成市の他の公共施設と同様に多言語対応やユニバーサルデザイン等について必要な対応を図ります。 地域貢献策としては、第 2 回建設検討委員会で提示した原案のままとしますが、ご意見の主旨を踏まえて施設整備基本計画の中に基本的な考え方として明示させていただきます。	○